

「ごみ半減プラン」の目標達成に向けた新たな取り組み

| 重点施策 | 方向性 | 具体的な取組 | 主な新規追加費用(見込み) ■: 毎年支出 □: 当該年度のみ支出 | 削減費用又は収入(見込み) |
|---------------------------|---|--|---|---|
| ①もったいない運動の展開による発生抑制の推進 | <p>1.市民向け</p> <ul style="list-style-type: none"> ○食べ物等、物を大切にす運動の展開 ○物を大切にす、また、その行動実践に活用できるガイドの作成 ○水切り用具のモニター制度の導入 ○市内で展開されている取組の紹介(陶磁器製・ガラス製食器の回収事業ともったいない食器市等) <p>2.事業者との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ○食べきり運動、マイボトル持参運動等を展開するための組織の構築 ○取組店とタイアップしたキャンペーンの開催 | <ul style="list-style-type: none"> ●排出実態及び減量取組調査等 ●広報紙、ホームページ等で市民にうったえる ●講演会、シンポジウム等の開催 ●小学生等への浸透(食育との連携) ●おもちゃ、カメラ、刃物研ぎ、傘修理等のお店の紹介、市内で修理フェアの開催(市内修理情報の収集・提供、おもちゃの病院等の修理フェア開催) ●水切りモニター調査の実施、市民のアイデア募集・提供 ●食べきり運動の展開(福井県、長野県、千葉県等)、マイボトル・箸持参協力店認定制度等もったいない運動推進制度創設(倉敷市 ※マイ箸の洗浄サービス等も提供) | <ul style="list-style-type: none"> ■啓発事業費 <ul style="list-style-type: none"> ・市民フォーラム、シンポジウム、修理フェア開催経費(講師謝礼、会場費出張修理サービス謝礼) 50万円/年 ■水切りモニター調査実施経費 <ul style="list-style-type: none"> ・水切り用具(しぼりっ子等)×200名/年のモニター 15万円/年(600円/個程度+郵送費) □食べきり運動展開のための経費 <ul style="list-style-type: none"> ・ポスター、パンフレット作成費 200万円(20万円/年) ・飲食店、スーパー等協議会開催費 20万円/年 □家庭系ごみの排出実態及び減量取組等の実態調査 <ul style="list-style-type: none"> ・実態調査費用(ごみ組成、アンケート・実施活動団体ヒアリング等) 300万円(30万円/年) | <ul style="list-style-type: none"> ○削減経費 約450万円/年 ※発生抑制による焼却量削減に伴う経費削減 1,300t×3,500円/t |
| ②プラスチック製容器包装の分別収集の実施 | <p>1.分別収集実施前の準備期間(市民への周知徹底)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地元説明会の開催 ○自治会未加入の市民への分別収集実施の連絡(駅へのポスター掲示、呼びかけ等) <p>2.分別収集開始後</p> <ul style="list-style-type: none"> ○分別収集状況を迅速に市民へ提供(洗浄度・異物混入度等の状況、収集量等) ○分別収集による効果把握 | <ul style="list-style-type: none"> ●地元説明会の開催 ●駅へのポスター掲示、チラシ配布等の呼びかけ ●広報紙、ホームページ等を活用したタイムリーな情報提供 ●市民からの分け方・出し方等のアイデア募集と市民へ提供 ●可燃ごみ(燃えるごみ)の削減量等の効果把握 | <ul style="list-style-type: none"> ■プラスチック製容器包装収集・選別保管経費 <ul style="list-style-type: none"> ・8,000万円/年(収集車両3台、選別保管費用等) □啓発等経費 <ul style="list-style-type: none"> ・ポスター作成費 20万円(2万円/年) □アイデア募集と情報提供経費 <ul style="list-style-type: none"> ・広報紙・ホームページの活用 □可燃ごみ(燃えるごみ)削減効果把握経費 <ul style="list-style-type: none"> ・可燃ごみ量の変化データ整理(データ整理は職員作業) | <ul style="list-style-type: none"> ○削減経費 約350万円/年 ※プラスチック製容器包装分別による焼却量削減に伴う経費削減 1,010t×3,500円/t |
| ③家庭系ごみ中の資源化可能な紙類削減の取組の推進 | <p>1.ミックスペーパーが資源化可能であることを市民へ周知</p> <p>2.可燃ごみ(燃えるごみ)収集時の古紙回収、集団回収への参加を市民に呼びかけ</p> <p>3.集団回収の育成</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●地域へ古紙の資源化方法の啓発(あらゆる地元説明会の活用) ●広報紙、ホームページ等の活用 ●集団回収未実施地区の把握と未実施地区の状況把握 ●紙ごみ(ミックスペーパー含む)の行政回収 | <ul style="list-style-type: none"> ■市民啓発費(ごみの出し方・広報紙・ホームページに掲載) <ul style="list-style-type: none"> ※他の事業で経費を計上 ■集団回収補助金(ミックスペーパー回収費等) <ul style="list-style-type: none"> ・補助金 約2,500万円/年 ■紙ごみ行政回収費 <ul style="list-style-type: none"> ・回収費用 約8,000万円/年 □集団回収実施状況調査経費 <ul style="list-style-type: none"> ・調査費用(集団回収実施団体マップ化、実施団体等ヒアリング) 200万円(20万円/年) | <ul style="list-style-type: none"> ○削減経費 約1,000万円/年 ※紙類削減による焼却量削減に伴う経費削減 2,970t×3,500円/t |
| ④家庭系ごみへの有料制の導入 | <p>1.生駒市ごみ有料化等検討委員会による審議と答申</p> <p>2.実施に向けた準備(周知、条例改正、ごみ袋の用意等)</p> <p>3.実施</p> <p>4.導入以降の対応</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●有料化実施にあたっての実施計画の策定(行政案) ●手数料とに関する条例改正 ●市民への周知、袋販売店の募集 ●ごみ袋の入札等 ●導入以降の対応 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール浸透状況の把握 ・不法投棄等の防止 ・減量効果の把握と市民へ提供 ・収入使途の有効活用・公表 | <ul style="list-style-type: none"> ■有料指定袋制実施経費 <ul style="list-style-type: none"> 合計 約5,050万円/年 [必要経費内訳] ごみ袋製造費 2,700万円 取扱店手数料 1,900万円 配送関係費 400万円 事務費 50万円 ※人口11万人(可燃ごみ量15千t(有料後))の津山市の事例から) ■導入以降の対応経費 <ul style="list-style-type: none"> 不法投棄監視カメラ設置、監視員報酬、監視用車両維持管理費、不法投棄物処分費 300万円/年(米子市の例を参考に設定) | <ul style="list-style-type: none"> ○有料化による収入 約2億円/年 |
| ⑤バイオマス(生ごみ・剪定枝等)の資源化 | <p>1.エコパーク21の活用</p> <p>2.地域循環モデル事業の実施</p> <p>3.民間生ごみ資源化施設整備・受入状況の把握</p> <p>4.先進事例の収集</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●約3,500tの生ごみの受入施設の整備(残り1,900tは自家処理等) ●剪定枝(約400t)のチップ化と市民への配布拠点の整備 ※民間のチップ化を含めると650t | <ul style="list-style-type: none"> ■家庭の生ごみ収集費用 約2億4千万円 □生ごみ処理施設整備費用 約3億6千万円(耐用年数20年として1,800万円/年) ■剪定枝チップ化処理費用 <ul style="list-style-type: none"> ・チップ化処理費(公共関与分) 25千円/t×400t=1,000万円/年 □貸し出し用家庭用小型剪定枝粉砕機 <ul style="list-style-type: none"> ・25万円×4台=100万円(10万円/年) | <ul style="list-style-type: none"> ○削減経費 約2,100万円/年 ※生ごみ等削減による焼却量削減に伴う経費削減 6,050t×3,500円/t |
| ⑥事業系ごみ有料指定袋制の導入 | <p>1.実施に向けた準備(周知、条例改正、ごみ袋の用意等)</p> <p>2.実施</p> <p>3.導入以降の対応</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●事業者への周知 ●導入以降の対応 <ul style="list-style-type: none"> ・減量効果の把握と事業者への指導等 | | |
| ⑦事業系ごみ減量・資源化促進のための取り組みの拡充 | <p>1.事業系ごみの排出実態の把握</p> <p>2.大規模事業所減量指導体制の確立</p> <p>3.小規模事業系ごみの対応方策の検討</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●市内事業所へ排出実態調査を実施し、減量取組の現状・課題等を把握 <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査、ヒアリング調査 ・ごみ組成調査 ●市内事業所の減量の取組情報交換会の開催(商工会議所と連携) ●事業系ごみの資源化・適正処理に関する講習会等の開催(商工会議所と連携) ●小規模事業所減量方策事例の収集 ●事業系ごみに対する事業者責任のあらゆる機会をつうじて啓発 | <ul style="list-style-type: none"> ■情報交換会・講習会の開催経費 <ul style="list-style-type: none"> ・会場費、講師謝礼等 20万円/年 □事業系ごみ実態調査経費 <ul style="list-style-type: none"> ・事業系ごみ実態調査費用(ごみ組成、アンケート、減量取組事例調査等)300万円 30万円/年 | <ul style="list-style-type: none"> ○削減経費 約1,200万円/年 ※事業系ごみ等削減による焼却量削減に伴う経費削減 3,500t×3,500円/t |
| | | 平成22年度総清掃事業費 約16億2千万円 | 約50,867万円 | 約25,100万円 |